

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより
NO11

平成28年9月9日(金)
文責 小俣 一夫

良好な親子関係のために

夏休みは、子どもたちにとってどのような時間になったでしょうか。7月の夏休み直前には、「こんなことをしたい。この目標を絶対達成するぞ!・・・」とたくさんの目標や計画があったことと思います。しかし、夏休みがはじまってみると、あっという間に時間ばかりが過ぎ、思い通りに計画が進まないうちに終わってしまったのではないのでしょうか。いよいよ2学期が始まりました。つぎの目標に向かってまた、頑張ってほしいと思います。

2学期の始まりにあたって、保護者の皆さんに、子育ての視点としてこんなことを考えてみてはと思います。

理想的な親子関係の条件があるとすれば、**第一の条件**は、お子さんに対して、「完全に保護者であること」であり、お子さんのありのままを親が受け入れるということです。つまり、我が子が「良い子でも悪い子でも、とにかく親は親であり、我が子を見捨てることなく、困ったときには全面的に受け入れる」という姿勢を示してあげることが望まれます。このことは、親の視点からは、親が子どもを愛するのは当然とされているように思いますが、お子さんの成長の過程で、一つ一つやってみなければわからないことが多くあるものです。

第二の条件は、お子さんの自主性が芽生えてきたら、「自主性を重んじてあげる」ことです。ある一定の年齢にきたら、「信じて、見守って、待つ」という姿勢が必要です。親の好き嫌いや価値観でお子さんを支配するのではなく、お子さんの要求に応じ、意見を尊重して、その意見に対して応えてあげることが重要だと思います。昔から、「かわいい子には旅をさせろ」といいますが、小さな失敗であれば、避けさせずに経験させてあげることが必要です。軽く転ぶことで、お子さんは痛い思いをした経験をとおして、次から転ばないように気を付けるはずですが、しかし、一度も転んだことのない子どもは、転んだら痛いということがわからないので、なぜ足元に気をつけなければならないのかが判らないのです。

第三の条件は子どもとのコミュニケーションを大切にすることです。頭ごなしに叱ったり、注意するのではなく、子どもの言い分に耳を傾けることが必要です。一見すると、理不尽に見える同じ行動でも、背景にある子どもの気持ちによっては、同じ行動でも意味するところが異なり、肯定すべきことも多いと思われます。「なぜそそうしたのか? なぜこうなったのか?」など、子どもの考えや意思をよく聴いて(尋問ではなく傾聴が大切です。)子どもの言動を尊重できると良いと思います。また、子どもが納得できるように話してあげることが大切でしょう。

第四の条件は、お子さんが「自分は役に立っているという実感を得る機会を奪わない」ことです。お子さんから、お父さんやお母さんに対して、何か手伝いたいという申し出があったら、遠慮せず、喜んで頼みましょう。人は皆、誰かの役に立ちたいと思っています。子どものやった仕事では、雑で納得できない面もあるかもしれませんが、親に「喜んでもらった、役に立った」という実感こそが、お子さんの自己肯定感を高め、自らの存在感を確立するのに役立つのです。

第五の条件は、親の考える型に当てはめようとせず「個性を尊重すること」です。親たちが陥りやすい落とし穴として、自分の子どもは、こんなふう育てたいと自分の理想の型に当てはめようとするということです。どの子どもも親の描いたとおりに育ったとしたら、それはパーフェクトで同じような人間だけが集まっている社会であり、そんな社会は不自然さわかりません。ヒトのDNAはみんな違って、お子さんにはそれぞれの個性があり、個性にあった生き方をするのが最も幸福なのだと思います。つまり、お子さんの意思を尊重することがとても重要になるのです。「みんなちがって、みんないい!」なのです。

ここまで読まれて、乳児期にほったらかしだったからと悔やんでいる保護者の方がおられるでしょうか?今からでも遅いということは全くありません。お子さんが甘えたそうにしていたら、乳児期に戻ったつもりで甘やかしてあげてください。一時的にわがままな子どもになるかもしれませんが、どんなに甘えさせてあげたいと思っても、満たされれば、さっさと離れていってしまいます。子どもが、親を求める時期はほんのわずかの期間です。悩んでも悩んでも、完璧な育児などないと思います。ぜひ、お子さんとの今の時間を大いに楽しむことを切望します。



今年もやると! 「組み体操 3人技」



夏のフールの思い出

秋季大運動会に向けて えがおとやるき一杯の宝っ子です!



今年度の秋季大運動会は9月17日(土)に開催します。児童会執行部が中心となって、1学期からテーマとマスコットを全校児童から募集し、夏休みも返上で横断幕を完成させました。(上の写真↑)

テーマは4年生の小林心結さんの作品が選ばれました。上の横断幕に書かれた「えがおとやるきの宝っ子 がんばる気持ちが一等賞!」です。

また、マスコットは6年生の滝口にこさんの作品に決定しました。 →

年間の授業時数が決まっている中で行う運動会ですので、練習時間は2週間という短い期間です。しかし、6年生を中心とした執行部の子どもたちは、全校一人一人の心に残る運動会になるよう、綿密な計画の中で取り組んでいこうと頑張っています。全校の子どもたちが一致団結し、自分たち流の楽しい運動会を作り上げてほしいと思います。当日だけでは見えないところで、今、一生懸命に頑張っている子どもたちがいっぱいいます。是非運動会では、そんな裏の部分も含め、子どもたちの頑張りに大きな声援と拍手をお願いいたします。



今年度のマスコット

着衣泳の体験をしました!

9月2日(金)3・4校時に2年生と5・6年生が「着衣泳」を体験しました。この授業の目的は、水の中で服を着ていると動かしづらいかということを経験し、水難事故に遭遇してしまった場合に、自分の命を守るには何をしなければいけないのかということを経験する機会を考えた行いました。

まえたかざたか講師には、都留市消防本部の消防士「前田 航 喬」さんをお願いをしました。ペットボトルをお腹に抱いて浮いてみたり、ライフジャケットと浮力を比べたり、また、洋服を着ているときと脱いだときの体の自由度を比べたり、子どもたちの経験として、非常に有意義な時間となりました。

ここで大切なことの第一は、危ないところに近づかない、子どもたちだけで川へ行って遊ばないということ、つまり、川でおぼれるようなことのないよう、安全な行動をとってほしいと思います。ぜひ、折に触れご家庭でも適切な指導をお願いいたします。



きめ細かな指導の前田先生



避難訓練を実施しました!

9月1日(木)10:30から避難訓練を実施しました。朝、子どもたちに、「今日は何の日?」と聞くと、聞いた全ての子どもからは「お八朔祭」という答えが帰ってきました。間違っても、「防災の日」と答える子どもはいませんでした。

それも当然です。関東大震災は、93年前のことですからやむを得ないことだと思います。1923年(大正12年)9月1日11時58分32秒に山梨県も含む関東・東海地方で起こった地震災害(マグニチュード7.9と推定される)があったのです。しかし、時間の流れとともに忘れてしまっはいけないことです。

私たちの住む富士・北麓地域は、東海地震、さらには南海トラフ地震が起こることが予想される地域となっています。東北大震災も含め、過去の大災害を忘れることなく、学んだたくさんの知識と経験を今の生活に活かしつつ、自分の身は自分で守るすべを、子どもたちに確実に伝えていかなければいけないと思っています。



グラウンドに避難した全校児童

